

## 特別企画：新潟県 スーパーマーケット業績動向調査（2020年度）

## コロナ禍の決算、売上合計は過去3年で最も高く

～ 年商規模別では業績に温度差も ～

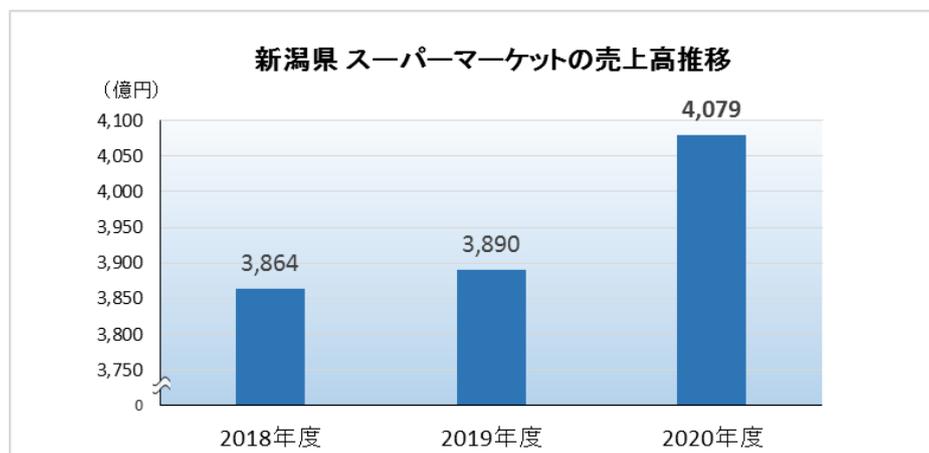
## はじめに

新潟県のスーパーマーケット業界は、今年7月にウオロクとマルイが業務資本提携を発表するなど、再編の動きがみられた。コロナ禍の「新しい生活様式」が浸透するなか、スーパーマーケットは家庭内の飲食需要に対応するなど存在感を増した一方、県外流通大手、ドラッグストアやディスカウントストアをはじめとした異業態との競合は激化している。取り巻く経営環境が変化するなか、県内の地場スーパーマーケット経営者の業績はどのように推移しているのだろうか。

帝国データバンク新潟支店は、2021年9月末時点の企業概要ファイル「COSMOS2」（147万社収録）の中から、2018年度（2018年4月期～2019年3月期）から2020年度（2020年4月期～2021年3月期）決算の年売上高と利益額が判明した新潟県に本社があるスーパーマーケット・各種食品小売業26社を抽出。売上高・利益額の推移などを分析した。

## 調査結果（要旨）

1. 2020年度の売上高合計は4079億6600万円  
前年度と比べて189億5700万円増加（4.9%増）し、過去3年で最高
2. 2020年度の利益額合計は75億4500万円  
前年度と比べて18億7700万円増加（33.1%増）し、過去3年で最高
3. 売上高・利益額とも年商規模上位の企業が業績を伸ばし全体を牽引



## 1. 売上高の推移

新潟県に本店があるスーパーマーケット経営業者 26 社について、2018 年度～2020 年度決算の年売上高合計をみると、2020 年度は 4079 億 6600 万円で、前年度と比べて 189 億 5700 万円増加（4.9%増）し、過去 3 年で最高となった。店舗開設やリニューアルに加え、コロナ禍の「巣ごもり消費」で高まった家庭内飲食需要などに対応した大手を中心に業界全体を牽引した。

増減収に目を向けると、増収は前年度より 6 社多い 10 社で、過去 3 年のなかで最多となった。一方、年商規模別にみると、年商 100 億円以上の企業 7 社すべてが増収または横ばいであったのに対し、年商 10 億円未満の 9 社のうち 4 社が減収を強いられた。

2020 年度の売上高ランキング 1 位は（株）原信（長岡市）で、新潟県のスーパーマーケットとしては唯一、10 年に亘り年商 1000 億円超で推移している。また、年商上位企業の多くが 6%以上の増収を記録した。

### 売上高の推移

年度	売上高合計 (百万円)	前年度比 (%)
2018	386,457	-
2019	389,009	0.7
2020	407,966	4.9

### 増減収(前年度比)の社数

年度	全体		
	増収	横ばい	減収
2018	6	14	6
2019	4	9	13
2020	10	9	7

### ⇒ 内訳(年商規模別)

※「横ばい」は増減率が3%未満と定義

100億円以上			10億円以上100億円未満			10億円未満		
増収	横ばい	減収	増収	横ばい	減収	増収	横ばい	減収
2	5	0	3	5	2	1	4	4
1	5	1	1	2	7	2	2	5
5	2	0	2	5	3	3	2	4

## 2. 利益額の推移

利益額（当期純利益）合計をみると、2020 年度は 75 億 4500 万円で、前年度と比べて 18 億 7700 万円増加（33.1%増）し、過去 3 年で最高となった。人件費や物流費は増加傾向にあったが、広告宣伝費の削減（感染拡大防止策）に加えて、利幅がある惣菜の充実やプライベートブランド（PB）商品の拡充、商品回転率の向上を図った企業を中心に利益率が改善、増収効果のなかで高収益をあげた。

### 利益額の推移

年度	利益合計 (百万円)	前年度比 (%)
2018	5,393	-
2019	5,668	5.1
2020	7,545	33.1

## 増減益（前年度比）の社数

年度	全体		
	増益	横ばい	減益
2018	9	0	17
2019	11	0	15
2020	17	1	8

## ⇒ 内訳（年商規模別）

※「横ばい」は増減率が3%未満と定義

100億円以上			10億円以上100億円未満			10億円未満		
増益	横ばい	減益	増益	横ばい	減益	増益	横ばい	減益
3	0	4	5	0	5	1	0	8
3	0	4	4	0	6	4	0	5
7	0	0	6	0	4	4	1	4

増減益に目を向けると、増益は前年度より6社多い17社となり、過去3年で最多だった。他方、年商規模別にみると、年商100億円以上の企業7社すべてが増益となったのに対し、年商100億円未満の19社のなかで8社が減益を強いられた。

2020年度の利益額の最高は（株）原信（長岡市）。利益額の伸び率トップは（株）マルイ（見附市）となった。

## まとめ

新潟県内に本店があるスーパーマーケット経営者の2020年度の売上高および利益額合計は、それぞれ過去3年で最高を記録した。コロナ禍の「巣ごもり消費」で高まった家庭内飲食需要に対応し、一般食品に加えて惣菜や冷凍食品、酒類などの品揃えに注力した企業を中心に好業績をあげた。なお、年商規模別では上位企業が業績を伸ばした一方、規模の小さい企業のなかには減収・減益となるケースもあり、二極化もみられた。

新型コロナウイルス感染拡大が落ち着きをみせ、外食需要がゆるやかに揺り戻すなか、特需といえた家庭内飲食の反動を見守る必要がある。足もとでは、EC（インターネット通販）市場の拡大、食品宅配業態、県外流通大手、ドラッグストアやディスカウントストアなど異業態の台頭など、限られた市場のなかで競合は激化しつつある。このよう状況下、空白地域への出店、客足確保のための店舗リニューアルをはじめ、レジの利便性向上など効率的な設備投資がますます重要となる。近時では、原材料価格の高騰を背景に食品メーカーの多くが価格を上方改定し、仕入価格の上昇が避けられないなか、スーパーマーケットの店頭では販売価格を据え置き、客足確保に注力する行動も散見される。

営業エリア内での人口減少や少子高齢化の進行は、多くの企業の経営課題となっている。スケールメリットを目指し効率的な業務提携などが活発化する動きも予想され、動向に注目したい。

## ＜参考＞

新潟県 スーパーマーケット 2020年度売上高ランキングトップ10

（単位：百万円）

順位	商号	所在地	年売上高 (2020年度)
1	株式会社 原信	長岡市	149,706
2	株式会社 ウオロク	新潟市中央区	82,776
3	株式会社 オーシャンシステム	三条市	60,022
4	株式会社 マルイ	見附市	26,670
5	株式会社 ナルス	上越市	24,485
6	清水商事 株式会社	新潟市中央区	14,000
7	株式会社 キュービット	新潟市東区	11,430
8	株式会社 一小イチコ	上越市	9,958
9	株式会社 カワマツ	新潟市秋葉区	6,658
10	株式会社 丸大	新潟市中央区	4,300

## 【 内容に関する問い合わせ先 】

株式会社帝国データバンク 新潟支店 担当：横井

TEL：025-245-5606 FAX：025-241-9019

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。